M 情報

2019.3

2 月 26 日に帯広で開催された酪農経営セミナーに参加させていただきました。セミナーの演目は「乳牛が快適で管理しやすい搾乳ロボット牛舎のデザイン」(講師 Jack Rodenburg)でした。おおまかな講演の内容と感想をこの場で伝えたいと思います。

ロボット牛舎のデザインには牛が搾乳ロボット、飼槽、ベッドを自由に行き来できるフリーカウトラフィックと、搾乳ロボット、飼槽、ベッドのそれぞれのスペースをゲートで区切るガイドカウトラフィックに分けることが出来ます。講師の Jack Rodenburg 氏はフリーカウトラフィックを推奨していたため、主にフリーカウトラッフィクについての牛舎デザインについての話しでした。

印象的だったのが蹄病等の治療をするためのスペースの存在です。予めゲートを設けておけば、牛舎内のどこからでも治療スペースへと連れて行くことが可能で、理想は牛舎内のどこからでも 1 人で 1 分以内に目的の牛を治療スペースへと連れて行けることだそうです。設定によってロボットでの搾乳後にキャッチペン等へと誘導することも可能ですが、タイミングよく搾乳に来てくれるかは分かりません。また、緊急時にこのような仕組みがあれば便利だと感じました。

Jack Rodenburg 氏は搾乳ロボットの近くに蹄病や分娩後の牛のためのペンと、フェッチカウ（搾乳ロボットへと入りにくく、搾乳ロボットへと追う必要のある牛）のためのペンの設置を推奨していました。理由としては前者は搾乳ロボットまでの距離を短くし、蹄病や分娩後の牛がロボットへアクセスしやすくするためです。搾乳ロボットの近くにこれらの牛のためのペンを設置することは有用だと感じました。特に寝起きが悪く、ロボットへのアクセスが減少してしまう蹄病牛に対してはカウコンフォートの観点からも良いと感じました。後者の理由としてはフェッチカウを扱うストレスの低減とロボットへの馴致のためです。

今回のセミナーで学んだことを皆さんに還元できるように、益々努力していきたいと思います。

先月の M 情報にて 3 月の M 情報から乳汁検査の培地についてお伝えすると書きましたが、今月は酪農経営セミナーについて書かせていただきました。乳汁検査の培地については来月の M 情報にてお伝えする予定です。

富田